

山口大学医学部附属病院緩和ケアセンター主催 第2回緩和ケア看護師教育プログラム開催報告

緩和ケアセンター事務局

平成30年10月20日、山口大学医学部附属病院新中央診療棟多目的室1、多目的室2において、山口大学医学部附属病院緩和ケアセンター主催第2回緩和ケア看護師教育プログラムを、長門総合病院、都志見病院の共催で開催しました。

緩和ケア看護師教育プログラムとは、緩和ケアを担う看護師を育成するために日本看護協会が作成した「看護師に対する緩和ケア教育テキスト」に基づいた緩和ケアの基礎について学ぶ教育プログラムです。

院内外から4名の認定看護師をファシリテーターとして迎え、山口県内の地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、特定領域がん診療連携推進病院、宇部・小野田・美祢圏域の経験年数1年以上の看護師25名の修了者となりました。

研修は講義だけでなく、グループで行う事例検討、3人で看護師、患者役、観察者役を交替で演じるロールプレイも組み込まれており、皆さん講義を真剣に聴講し、グループワークやロールプレイでは、活発な意見交換が行われ、意欲の高さを感じることができました。

研修終了後のアンケートでは、「緩和ケアについて詳しく知ることができました。今後学んだことを活かしていきます。ありがとうございました。」「早いうちから緩和ケアの介入を考える必要があることが分った。がん患者さんへのケアに今後活かしていきたい。」「ロールプレイやグループワークを通して多くの意見が聞けて参考になりました。」

など多くの意見が寄せられ、有意義な研修会となり無事修了することが出来ました。

本プログラムは来年も開催予定です。より多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

《研修会風景》

講義



ロールプレイ



グループワーク



修了証書授与

